

令和3年度日本医師会女性医師支援・ドクターバンク連携
九州ブロック会議

熊本県医師会

テーマ1: ドクターバンクの状況報告

当県には、女性医師支援を目的としたドクターバンクの設置は行っておらず、今後の課題点である。

テーマ2: 復職・再研修支援体制

週1回からの復職：「お留守番医師制度」

短時間勤務制度：冊子「CLOVER」およびホームページで
短時間勤務制度を応援する病院・診療科の情報を更新。

育児支援： 熊本市医師会「メディッククラブ」で無料保育
冊子「CLOVER」およびホームページで院内保育の情報を更新。

求人情報：<http://kumamoto-joseiishi.jp/recruit/list/>

「お留守番医師制度」

復職したいけど育児
で時間的制約が、、、

在宅始めたいけれど
クリニックを留守に
できない、、、

これまでに7人マッチ
うち5人就業

現在16件ご登録



勤務時間で困っている方

やりがいのある仕事を続けたい、せっかく獲得した技術を保ちたい、だけど育児や介護でフルタイム勤務は難しいという方に、短時間勤務を応援してくれる病院各臨床科の情報を提供しています。

また、各病院へのお問い合わせなどを代行します。

お気軽にご相談ください。



短時間勤務を 応援している病院

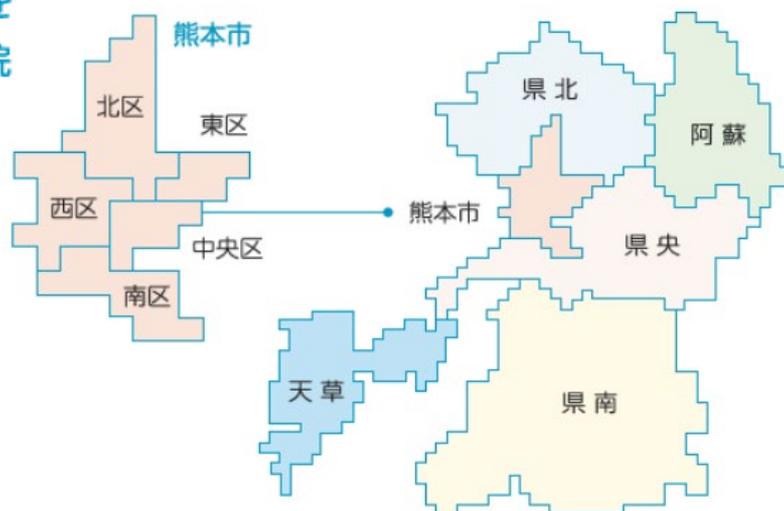
病院名

熊本大学病院

HP



熊本市中央区 眼科、泌尿器科、乳腺内分泌外科、腎臓内科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経内科、小児科、消化器内科、消化器外科、産科、婦人科、血液内科、膠原病内科、画像診断治療科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、循環器内科、皮膚科、形成・再建科、呼吸器内科、神経精神科、脳神経外科、整形外科、糖尿病・代謝・内分泌内科



眼科

当科には女性医師が14名在籍しており他科よりも女性医師の占める割合が多いこともありライフスタイルに合わせて育児休暇や短時間勤務を利用し出産後も働ける環境を整えております。ご興味のある方は当科までご相談ください。

育児支援

育児で困っている方



熊本県内の院内保育を有する

(主に公的病院もしくは100床以上を有する)
病院をご紹介します。

院内保育がない場合は熊本市医師会館内保育所
「メディッククラブ」のご利用もご検討ください。
一部の復職支援制度では無料保育も可能です。
その他県内の保育施設などの情報については
熊本県のホームページをご参照ください。

院内保育園
のある病院

病児保育
のある病院

病後児保育
のある病院

学童保育
のある病院

メディッククラブについて

事前登録時の提出書類はこちらの3種類です

▶ 入会申込書(登録書) 

▶ 登録前アンケート 

登録前アンケートにつきましては、年齢別で記載内容が異なりますので、sheet1
～ sheet3 までございます。

▶ 健康記録表 

パンフレット

詳細 ▶



テーマ3: 女性医師のキャリアアップ支援体制

相談窓口： 熊本県女性医師キャリア支援センター

メンター制度： 病院・診療科を超えた相談体制

熊本大学病院男女共同参画推進委員会：「男女共同参画コーディネーターの会」

熊本大学病院では、2014年12月10日の運営審議会で承認を受け、熊本県における医師の離職抑制、復職支援、男女共同参画を進める窓口とし各臨床系医局に2名ずつ(医局長と担当者男女各1名)「男女共同参画コーディネーター」を設置している。



2017・2020年度 各診療科医局長（男女共同参画コーディネーター）
アンケート調査内容

2014～2019年度に医局に所属した医師のうち、
男性・育児中以外の女性・育児中の女性
について以下の項目を比較

①大学院生の割合

②専門医を取得した医師の割合

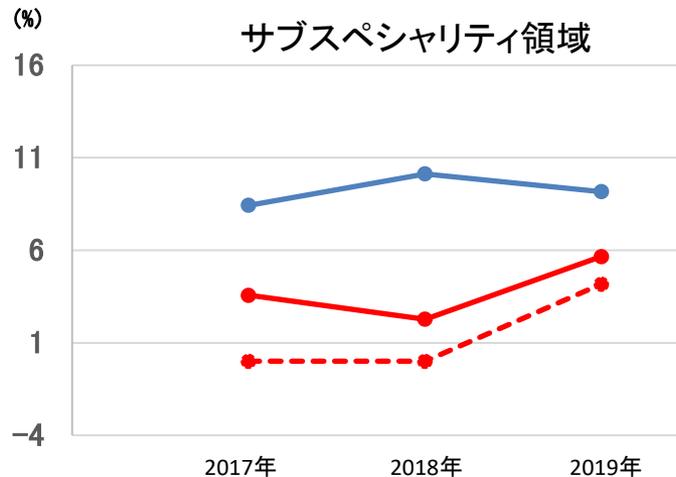
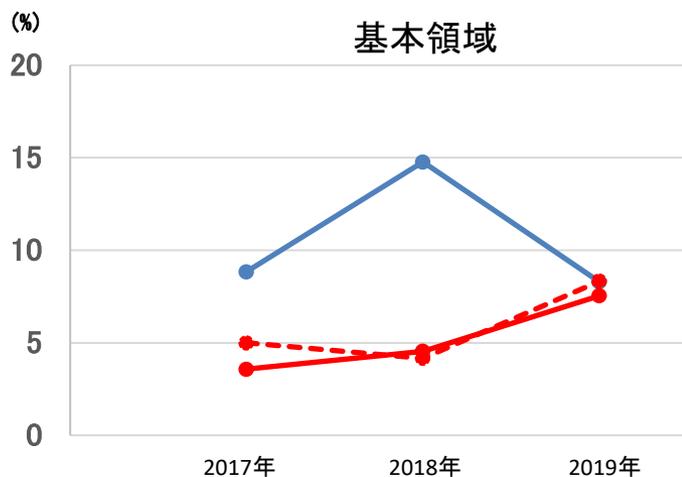
③学会発表をした医師の割合

④英語論文を投稿した医師の割合

⑤海外留学をした医師の割合

（13診療科が2回とも調査に回答）

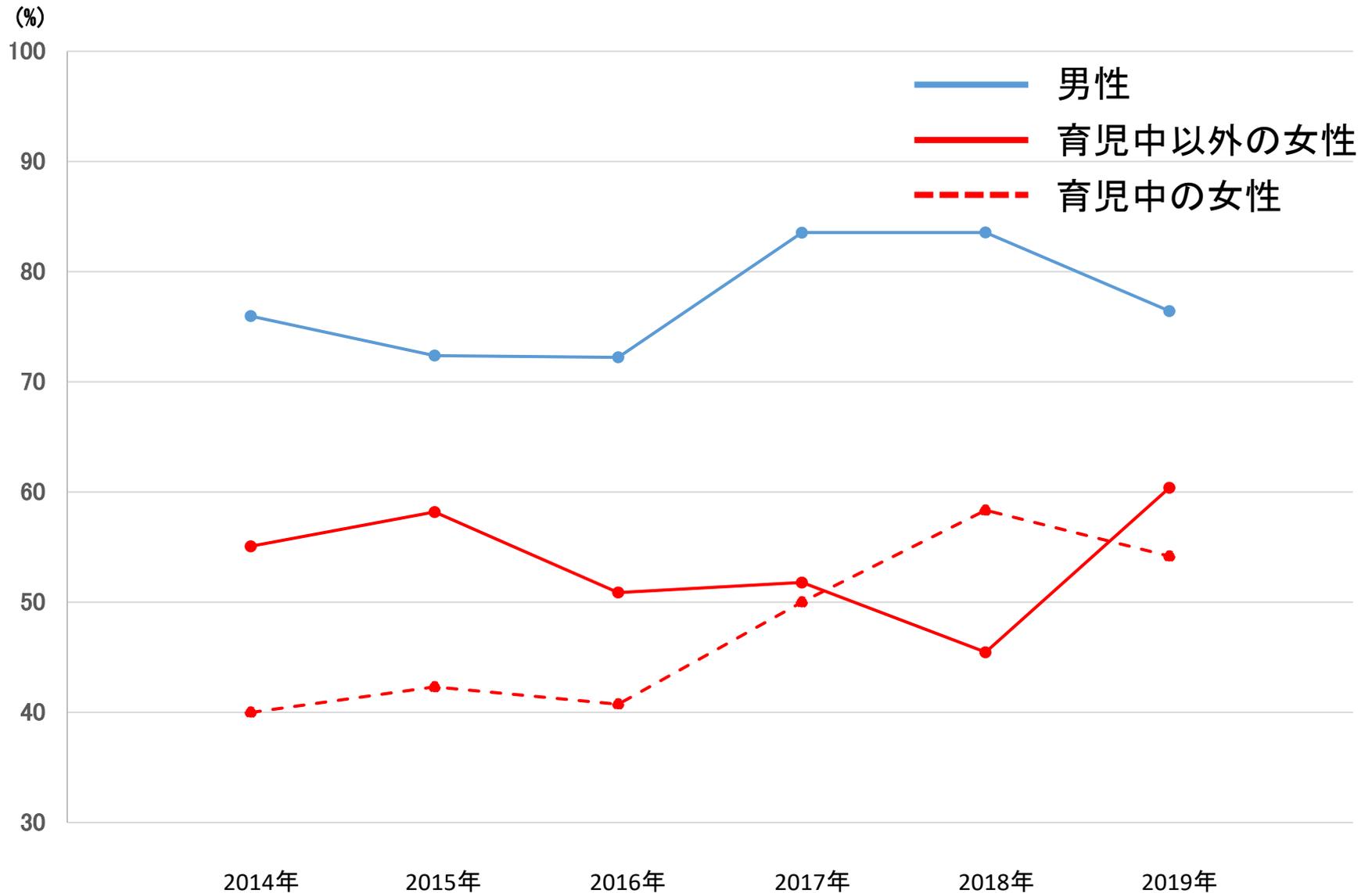
②専門医を取得した医師の割合 サブスペシャリティで男性と女性に有意差



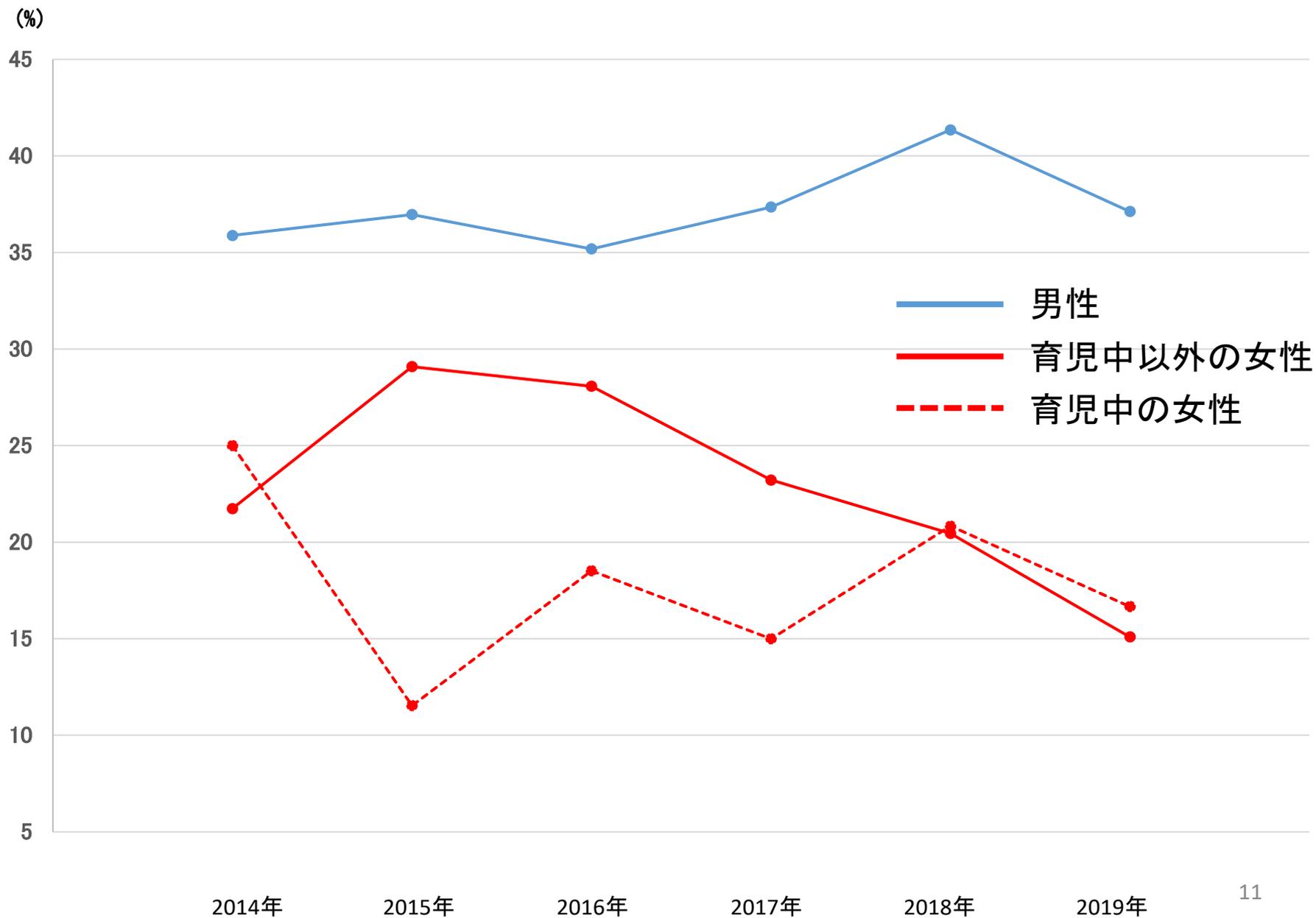
- 男性
- 育児中以外の女性
- - - 育児中の女性

③学会発表をした医師の割合

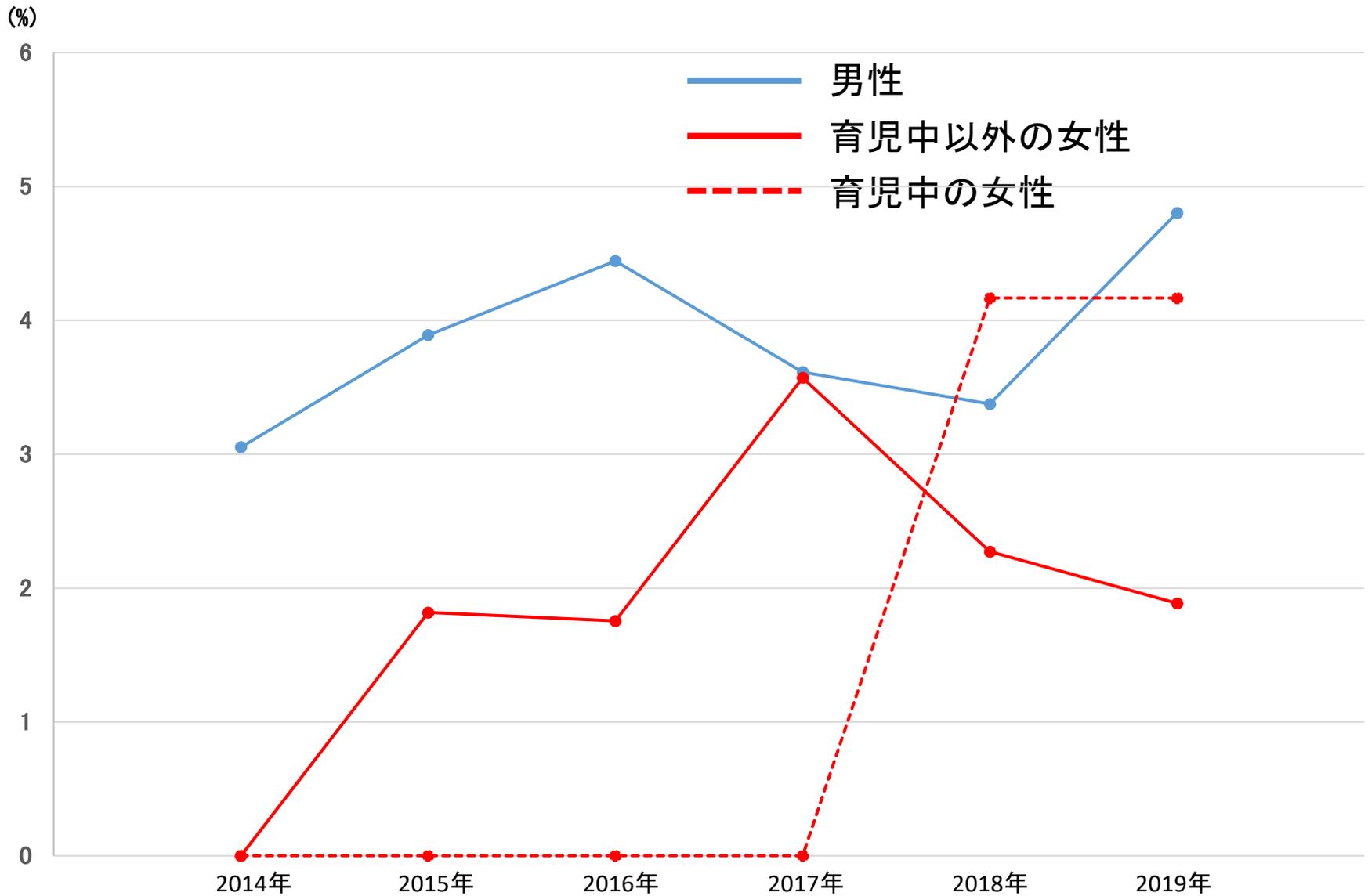
男性と女性に有意差



④英語論文を投稿した医師の割合 男性と女性に有意差



⑤海外留学をした医師の割合 男性と育児中の女性に有意差





H先生

[留学先]

メリーランド州アメリカ国立衛生研究所(NIH)

国立癌研究所(NCI)のラボ

1997年~1999年

卒後3年目が終わる頃、夫の留学が決まり子供もいなかったため、夫と同じ所で勉強するよう教授から薦められ留学を決めました。



I先生

[留学先]

ボストン大学(強皮症の研究を主にやっている研究所)

2018年~2020年

アラフォーの壁にぶつかり、自分のキャリアや家族の事、これからの事を考えて研究留学という形をとりました。自分がやりたい研究とは違いましたが、教授がボスを薦めてくれ留学を決めました。(日本人が雑巾みたいに扱われる嫌な話もあるので、教授からは知っているボスの所にしか留学させられないと言われたため。)



F先生

[留学先]

ジョスリン糖尿病センター

2017年~2020年

医局の教授が留学されていた所を紹介してもらいました。日本で10年目以降については全く計画が立たず、実際は自分が何をするのか見つめ直す時期が欲しいと以前から思っていました。留学した先生方は大体9割以上が留学を薦めるので、特に留学を計画はしていた訳ではなかったのですが、あまり深く考えず決めました。

留学の すゝめ

Recommendations
for studying abroad

